

[屋上緑化の景観向上に向けたグランドカバー植物の植物特性と環境緩和効果に関する研究]

低日照条件下におけるグランドカバー植物の色彩への影響

～第2報 斑入りアベリア品種の葉色への影響～

中村圭亨・渋谷圭助

(緑化森林科)

【要約】 斑入りのアベリアについて、日のあたる時間帯や長さの違いが色彩的特徴へ及ぼす影響を調べた。斑の面積割合には影響を与えなかったが、低日照により、斑の部分の白色化、および赤の発色が抑制され、品種の特徴が失われることが確認された。

【目的】

近年、彩り豊かな魅せる緑化が増えているが、建物の陰など日照条件の悪い場所に植栽され、品種本来の色彩的特徴が発現していない例がしばしば見受けられる。そこで、建築物緑化で利用頻度が高く色彩的特徴のある植物種について、各種日照条件下での影響について明らかにする。今回は、斑入り品種について、斑の面積割合と、斑の部分の色彩発現(白色化および赤色の着色)への影響を検証する。

【方法】

供試植物は、建築物緑化に多頻度で使われているアベリアのなかで、斑入り園芸品種2種を用いた(表1)。試験区の設定、サンプリング方法および色彩計測手法は第1報「アベリアの葉色への影響」と同様で、10月19日に調査を行った。なお、斑の面積割合は、葉面積における白色部分の面積の割合で、色彩計測は斑の部分について行った(図1)。

【成果の概要】

- 1) 「ホープレイズ」、「コンフェッティ」両品種ともに、斑の面積割合には処理区間での差がみられなかった(表2)。
- 2) 「ホープレイズ」の斑の部分の色は、薄く黄色がかった白色であるが、低日照区では黄緑色を呈した(図2)。
- 3) 「コンフェッティ」の斑の部分の色は、午前区、対照区、午後区の順で赤方向が強くなる傾向がみられ、低日照区では赤の発色は無く、薄く黄色がかった白色であった(図3)。
- 4) 目視観測から、「コンフェッティ」の冬季の紅葉について、低日照区においては、ほとんど発色がみられなかった(図4)。
- 5) まとめ: ①斑入りのアベリア品種にみられる斑の面積割合については日照の影響は無かった。②「ホープレイズ」の斑の部分の白色化は、低日照により抑制され、斑入り品種の特徴である緑と白のコントラストが失われる傾向があった。③「コンフェッティ」の赤色の発色は低日照で抑制され、品種の特徴が失われることが確認できた。その一方で、対照区より午前区の方が赤方向に分布したことから、赤の発色には日のあたる時間帯や長さ、または、それに伴う気温・地温などの要素が影響する可能性が示唆された。

表1 供試品種とその特徴

品種名	ホープレイズ	コンフェッティ
外観		
葉の形態		
特徴	白色の覆輪斑, 薄紫花	小葉で白-ピンクの覆輪斑, 新葉と低温でピンク色になるのが特徴的



図1 色彩計測部位

表2 斑の面積割合

処理区名	ホープレイズ	コンフェッティ
低日照区	34.7%	41.9%
午前区	37.3%	42.1%
午後区	36.9%	42.6%
対照区	35.1%	41.0%

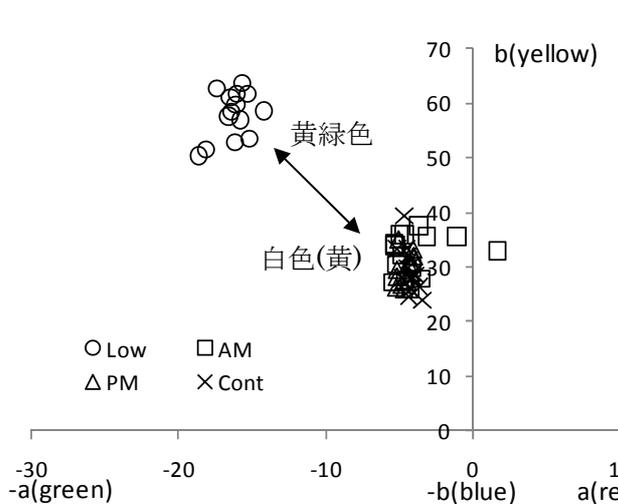


図2 「ホープレイズ」の葉色分布

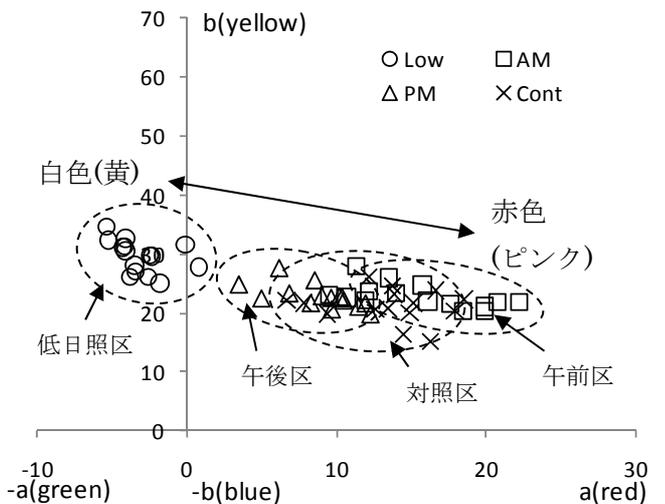


図3 「コンフェッティ」の葉色分布



図4 冬季の紅葉の様子(1月4日撮影)